

ようこそ、大阪教区へ！

司祭紹介

氏名 永尾 稔^{みのる}神父
出身地 長崎県五島市玉之浦町
生年月日 1959年1月16日
所属 コンベンツアル聖フランシスコ修道会
司牧担当 仁川教会協力、仁川学院校長・学院長



大阪教区赴任にあたって、ひと言

「私は、長崎県の五島列島の生まれで、家族・親戚共、カトリック信者の家庭で育ちました。司祭叙階後の1986年に一度、仁川教会助任として赴任しました。今回は、12年ぶりに仁川教会に戻ってまいりました。4月から、仁川教会のミサの協力司祭として、また、仁川学院小学校・中学校・高等学校の校長と学院長を兼務しています。これから、大阪教区のために少しでも協力できればと思っています」。

氏名 カンデラリア・レネ・バシト神父
出身地 フィリピン
生年月日 1973年12月30日
所属 淳心会
司牧担当 姫路地区協力、カトリック青年労働者連盟(JOC)の全国協力者



大阪教区赴任にあたって、ひと言

「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28・19～20)。

私は司祭叙階のときにこの言葉を選びました。司祭として生きる生涯に、この言葉を生かして歩んでいきたいです。大阪教区赴任にあたり、出会う人すべてをイエスの仲間入りに招き、神様とともにいることを感じさせるような存在になりたいです」。

5月19日(水)、第187回司祭評議会がオンラインで初めて行われた。会議の様子と内容を一部紹介する。

コロナ禍のもと、評議会はこれまで数回、中止や延期を余儀なくされてきた。しかし、感染終息の目途が立たない現状からオンライン会議に踏み切った。

いつもの会場では、スクリーンにコンピュータ画面が映し出され、評議員は各自のパソコンから開始時間に合わせて参加。会議での発言のタイミングなど戸惑う場面はあったものの、対面で行っているときと同じように活発な意見交換がなされた。

この会議では評議員として8地区の代表が集うことから、今後の有効的なウェブ活用も検討される。ただ、

会議前や休憩時に立ち話で行われる個人間の相談や雑談ができないことで、司祭同士の交流の機会がなくなってしまうているような気がして残念だった。集うことで、さまざまなチャンスが生まれてくるので、コロナ禍の早期終息を祈るばかりだ。

主な議題は次の二つ。現在、日本には多くの外国籍の方が様々な事情で訪れている。その中には私たちと同じ信仰をもつ人びとも多い。短期・長期の区別なく、すべての信者にとって、「皆の教会」となることを目指して、教区としてできる具

次には話されたのは、昨年司教協議会により設置された「すべてのいのちを守るための月間(9/1-10/4)」における教区の取り組みについて。司教団はこの月間中、一昨年の教皇訪日テーマ「すべてのいのちを守るため」を思い起こし、命の尊厳、環境・貧困問題に関する教皇フランシスコのメッセージから学ぶよう勧めている。

司教団が勧める月間の過ごし方とは別に、大阪教区ではこの方針に沿いながら、「すべてのいのちを守るための特別献金(※名称

変更)を設立し、月間中、募金の協力を呼びかけることにした(時報昨年9月号参照)。月間が近づいたら、改めて募金の趣旨と詳細をお知らせする。



会場のスクリーンで互いの顔を見ながら



「信仰の時間」

ABCラジオ(朝日放送)
毎週日曜日 5:50~6:00AM

5月担当: ジョヴァンニ・デア神父
(尼崎教会)

三位一体の主日

(30日放送分より)



本日、カトリック教会は三位一体の祭日を祝います。おそらくキリスト教の教えの中で、一番理解するのが難しい神秘かもしれません。キリスト教は一神教であることを主張しています。つまり唯一無二の神様を信じているということです。しかし同時に、父と子と聖霊の神、三位の神様を信じています。つまり、多神教のように感じるでしょう。一神教でありながら三位の神様を信じる、簡単に言えば、矛盾が生じます。

三位一体は偉大な神秘なので納得いく説明はなかなか出来ませんが、イメージを通して理解できると信じています。「私」にとって、なぜこの唯一の神様が三位になっているか、が出发点です。答えは、私たちと深く完全な関係を作るためです。

第一に、父なる神、天国にいらっ

しやるすべての創造主がいます。つまり、上にいる神様です。第二に、子なる神、イエス様がいます。人間となり、私たちにとって友人のように、兄のようにいつもそばにいる存在です。つまり、私たちの隣にいる神様です。第三に、霊なる神、聖霊がいます。聖霊は目には見えない神の力です。聖霊は私たちの中でキリストの働きを続けます。聖霊は私たちの心に力を与える神様です。つまり、私たちの中にいる神様です。

この説明によると、神様は三つの存在ではなく、同じ神の三つの違う顔、三つの異なる表現です。神はあらゆる方法で私たちの近くにとどまりたいと望んでくださったので、三つの完全に異なる表現になりました。それはまるで神様が、どんな関係であっても私たちと関わり合いた

いと望んでいるかのようなのです。

私たちは人間なので、天にいる父のような神様をどうしても必要とします。隣にいる友人、あるいは兄のような神様を必要としています。自分の中にいる力を与える神様を必要としています。

神様が三つの異なる表現ならば、私たちはどのように祈れば良いのでしょうか。それぞれに向かって、違う方法で祈ることかもしれません。天にいる創造主である父には、主の祈りのとおり、毎日の糧のために祈ります。私たちと共にいる子である神様には、毎日必要としているアドバイスや指導のために祈ります。兄や友人のように福音を通して助ける力を与えてくださるからです。そして、私たちの中にいる神様には、毎日必要としている力とパワーのために祈ります。聖霊は私たちを兄弟姉妹に奉仕させ、そして神様をほめたたえることを促すからです。

最後に、どのようにすれば、神様がお一人であることを忘れずにいることができるのでしょうか。答えは、三つの異なる方法すべてで神様と関係を築こうとすることです。そうす

れば、神の一致と一体性の本質を発見することができるでしょう。キリスト者としてこれを生活の中で実現しない限り、神の一致と一体性を感じることはできません。

具体的に言えば、毎日父なる神には必要なものを祈り求めることで、毎日の生活のための導きを求めます。これは私たちにとって少し難しいことかもしれません。正直に言えば、私も神学校に入るまでなかなかミサ以外で聖書を読むことは少なかったです。聖霊なる神には、私たちが毎日心にある力を分かちあって行動できるよう祈り求めます。これは私たちにとって一番難しいことかもしれません。精神的・物質的に困っている兄弟姉妹を助けたり奉仕したりすることを避けるたびに、私たちは神と完全なる一致と一体性を叶えることが出来なくなります。だからこそ、パウロはいつも手紙の中で霊によって生きることがキリスト者の生き方であると言います。

三位一体を再発見するために努めることができたなら幸いです。そのために祈りましょう。